

# は じ め に

英語の授業後、ある生徒から寄せられた感想に、「今日の活動はたくさんの英語を話せて、すごく楽しい時間でした。日常で使う英語を積極的に話せて、少し自分が『かっこいいな』と思いました」というものがありました。日本は、若者の自己肯定感がもっとも低い国の一つだと言われますが、そんな中でも、授業中に英語を積極的に話す自分のことを「かっこいいな」と生徒が思ってくれたことがとても嬉しく、強く印象に残った出来事となりました。

多感な時期の生徒たちは、表面上では自分のことを表現することを避けているように見えますが、実際には、友だちや教師とコミュニケーションをとり、世界中の多くの人とつながりをもつことを求めています。

英語でコミュニケーションがはかれるようになると、得られる情報が格段に増えます。そして、情報が増えることによって、物事を多角的に捉え、判断することもできるようになります。また、世界共通語である英語は、まるで音楽やスポーツのように、世界中の人たちとコミュニケーションをとる喜びを教えてくれます。今後さらに、英語を学び、英語を積極的に使う機会を得られる授業へのニーズは高まっていくでしょう。

グローバル化や情報機器の急速な発展によって、世界のニュースは自分とは関係のない遠い場所での出来事ではなく、すぐにでも手に入る身近な情報の一つになりつつあります。それはつまり、地球規模で情報を取捨選択し、自ら考え、自分の言葉で発信することが求められる時代への変化であるとも言えます。

急速に変化する世界とともに、英語の授業も変わってきています。「英語を日本語に訳すだけの中学校・高等学校の授業では、コミュニケーションなんてとれない……」と言われていたのは一昔前のことですが、英語で英語を学ぶいわゆる All English の授業展開へと変化を遂げています。

同時に生徒に英語力を身につけさせようと、日々努力している教師の中には、「新しい英語教育が始まっているのに、今まで通りの授業でいいのだろうか?」「ゲーム中心の授業だけで、生徒の英語力は向上するのだろうか?」という疑問が湧き上がってきてています。新しい学習方法が出るたびに、学校での授業に変化を求められることも少なくありません。

本書では、ペアワークやグループワークの活動のねらいと効果を明確にし、生徒の活動を中心とした授業づくりを紹介するとともに、これまで行われてきた授業の活動にちょっとした工夫をすることで、生徒1人ひとりのコミュニケーション能力や英語力がぐっと高まるコツを紹介します。生徒たちは、英語を活用したり、発信したり、友だちと交流したりする活動を通して、英語を使ってコミュニケーションをはかる喜びに気付き、さらに意欲的に学習に取り組んでいきます。

我々英語教師は、英語を教えるのはもちろん、生徒と同じ English learner として、常に学ぶ姿勢を示すべきだと言われます。私自身、教員歴を重ねていっても、「英語を活用する授業をつくっていきたい」という想いを常にもち続けていたいと思っています。本書が、同じような志をもつ先生方にとって少しでもお役に立ち、目の前の生徒たちが瞳を輝かせながら活動に取り組むきっかけになれば幸いです。

これまで、たくさんの刺激や気付きを与えてくださった先生方、そして生徒たち、すべての方々との出会いに心から感謝しています。末筆になりましたが、教員生活 20 年の節目の年に、自らの実践をまとめ、振り返る機会をくださった学陽書房に感謝申し上げます。

2019年7月

西林慶武

はじめに .....	3
------------	---

## Chapter 01

### 4 技能をみるみる高める 授業づくりの基礎・基本

#### Over view

生徒の活動で“使える英語”がみるみる身につく！ .....	12
-------------------------------	----

- 1** 4 技能が確実に高まる授業づくりとは ..... 14
- 2** 4 技能を意識した授業づくりのねらいと効果 ..... 18
- 3** 4 技能を高めるペア＆グループワーク ..... 20
- 4** 生徒が安心して高め合える授業のポイント ..... 26
- 5** 生徒の活動を授業の中心に据えるために ..... 28

## Chapter 02

# ペア&グループワークが 機能する授業づくり

### Over view

ペア&グループワークで授業を組み立てる！ ..... 32

**1** ペア&グループワークで授業を組み立てるには ..... 34

**2** ペア&グループワークの5つの効果 ..... 40

**3** ペア&グループワークでクラスを学習集団に高める ..... 44

**4** ペアワークの流れ ..... 50

**5** 意欲と学習を活性化させるペアワーク ..... 54

**6** ペアワークをもっと活性化するための工夫 ..... 58

**7** FunとInterestingを高めるグループワーク ..... 62

# Chapter 03

## 4 技能をバランスよく高める ペア&グループワーク

### Over view

4 技能の「理論」を「実践」につなげる！ ..... 68

#### 1 「聞く」力を伸ばすワーク①

グループ対抗 BINGO ..... 70

#### 2 「聞く」力を伸ばすワーク②

Synchro ..... 72

#### 3 「聞く」力を伸ばすワーク③

Visualizing ..... 74

#### 4 「読む」力を伸ばすワーク

音読活動：基本 + 7variations ..... 76

①Synchro Reading ②1語読み ③スラッシュ Reading

④役割 Reading ⑤同時通訳読み ⑥Chase Reading

⑦バンバン Reading

#### 5 「話す」力を伸ばすワーク①

Hint Card カルタ ..... 84

<b>6</b>	「話す」力を伸ばすワーク②	
	<u>消しゴム Talk</u>	86
<b>7</b>	「書く」力を伸ばすワーク①	
	<u>Mad Libs</u>	88
<b>8</b>	「書く」力を伸ばすワーク②	
	<u>Writing 活動</u>	90
<b>Column ①</b> ペア & グループワークに見る行動心理学		92

## Chapter 04

### 4 技能の重なりを利用する ペア & グループワーク

#### Over view

ペア & グループワークで 4 技能のスキマを埋める！ ..... 94

<b>1</b>	「聞く」と「読む」の重なりを利用するワーク①	
	<u>Word Power</u>	96
<b>2</b>	「聞く」と「読む」の重なりを利用するワーク②	
	<u>カルタ：基本 + 4variations</u>	98
	①定型文カルタ ②疑問文応答カルタ	
	③Magical カルタ ④Reaction カルタ	

<b>3</b>	「読む」と「話す」の重なりを利用するワーク	
	<u>教科書音読からの表現活動 + 3variations</u>	104
	① Pair Reading ②日英ごちゃ混ぜ Reading	
	③穴埋め Reading	
<b>4</b>	「読む」と「話す」と「聞く」の重なりを利用するワーク	
	<u>Pair Quiz + 3variations</u>	108
	① Liar Game ② 3 Hints Quiz ③ Thingy	
<b>5</b>	「聞く」と「話す」と「書く」の重なりを利用するワーク①	
	<u>Interview BINGO</u>	114
<b>6</b>	「聞く」と「話す」と「書く」の重なりを利用するワーク②	
	<u>1 minute Speech &amp; Dictation</u>	118
<b>7</b>	「聞く」と「話す」の重なりを利用するワーク①	
	<u>Speech Describing</u>	122
<b>8</b>	「聞く」と「話す」の重なりを利用するワーク②	
	<u>なりきり Interview</u>	124
<b>9</b>	「読む」と「話す」と「書く」の重なりを利用するワーク	
	<u>Retell</u>	128

# Chapter 05

## ペア & グループの学びを クラス全体へ広げる活動

### Over view

クラス全体を学ぶ集団に変える！ ..... 132

#### 1 ペア & グループワークをクラス全体に広げる活動

作品交流会 + 4variations ..... 134

- ① Visualizing 展覧会 ② Story 交流会
- ③ 記者会見 ④ 人物 Speech

#### 2 生徒の学習をもっとアクティブにするペア→グループ→クラス全体活動

主体的・対話的で深い学びをつくる活動 + 3variations ..... 142

- ① 学び合い～英作文活動 ② 学び合い～本文チェック
- ③ 学び合い～文法確認

#### 3 テストの解き直しをオリジナル問題作りにつなげる活動

問題作成活動 + 7variations ..... 148

- ① Listening 問題 ② 文法問題・Find Mistakes
- ③ 長文読解・本文読解形式 ④ 並び替え問題
- ⑤ 邪魔者を消せ ⑥ 迷子を戻せ ⑦ 間違いを正せ

Column ② クラスづくりが学力づくりにつながる ..... 156

# 02-4

## ペアワークの流れ

— 活動の流れを徹底することが効果を引き出す秘訣 —

### ▶ 基本は5つのプロセスで

ペアワークの活動の中には、「協力」「コミュニケーション」「相手への思いやりや理解」などの要素があります。しかしながら、ただ「協力しない」「コミュニケーションをとりなさい」「相手のことを思いやりなさい」と繰り返すだけでは、それらの要素は活かされません。

そこで、活動の流れを定着させながら、それぞれの活動の意味を伝えることが大切だと思います。まずは、ペアワークの基本的な流れを押さえましょう。

① Make pairs	ペアをつくる。クラスの人数が奇数のときには、3人組で行うか教師とペアを組むようにする
② High five	ハイタッチをしながら簡単な挨拶をする
③ Rock,scissors, paper	順番や役割を決める活動の前にはジャンケンをする
④ Reflection	活動が終わったら、振り返りを短時間で行う
⑤ High ten	活動後、パートナーとダブルハイタッチで挨拶をして席を移動する

## ①Make pairs

ペアをつくるときは、人間関係や英語力などを考慮してペアをつくったほうが活動が盛り上がり、効果も引き出しやすいのですが、最初は簡単につくることができる隣の席同士などから行うといいでしよう。「クラスの誰とでも」ペアになり、一緒に協力して行うということを伝えていく上でもおすすめです。



# 02-7

## FunとInterestingを高める グループワーク

— 人数が多いグループワークで、よりダイナミックな学びを！ —

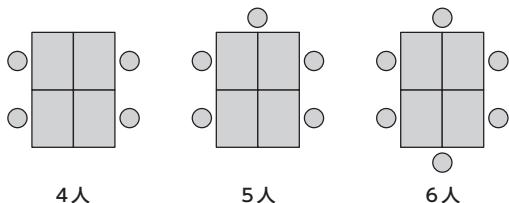
### ▶ 座席配置と説明のタイミング

グループワークのポイントの1つは、教師がいかにしてクラス全体とグループ活動をオーガナイズするかにあります。

一斉指導のときには、生徒全員が黒板や教師のほうを向いているため、教師は1人ひとりの顔を見ながら指示を出したり、話をしたりすることができます。しかしながら、グループ活動の座席配置になると生徒同士が顔を合わせて座ることになるため、教師からの死角も多くなり、なかなか指示が伝わらない傾向があります。

そこで、説明や指示はグループワークの座席配置にする前にしっかりと行い、クラス全体に「何を」「どのくらい」「なぜ」活動するのかについて理解させてから進めることが大切です。

グループワークは、生徒同士が話をしたり、楽しい雰囲気で行うことができるなどさまざまなメリットがあるため、取り組みの頻度を多くしたいところですが、そのためにも、説明のタイミングや流れのメリハリをしっかりとつけて、楽しく、意味深い活動へつなげていきましょう。



\* カルタやゲームなど、グループ全員で活動するときには、あまりにも机のスペースが広いと生徒の集中力が散るため、6人班でも机を4つにします。

## ▶ 助け合い～学び合い～競い合いを活用したワーク

グループワークにはいくつかの要素があります。それぞれの活動の要素を生徒の学習段階に合わせるようにすると、1人ひとりの英語力の差異を上手に活用でき、ただ楽しいだけではなく、楽しみながら英語を学ぶことができます。

生徒同士の学力や英語力の差をマイナス要素と捉えるのではなく、その差を上手に活用することができるのがグループワークの大きな利点の1つです。

要素	活動の種類	活動の例
①協力 ②配慮	グループで協力する活動やグループ対抗の活動	グループ対抗 BINGO、Synchro など
③競争	グループメンバーと競争する活動	カルタなど
④理解 ⑤交流	グループメンバーと話す活動や意見を交換する活動	なりきり Interview、意見交流など

グループワークをただ楽しいだけの活動にしないためには、教師が生徒の学習段階を考えながら、それぞれの活動の要素やねらいを理解して行う必要があります。

新しく学習したことを使ってグループワークを行う際のイメージとしては、まずはメンバーと協力したり、メンバーのことを配慮したりしながら活動を始め、メンバー全員が自信をもって活動に取り組めるようになった後に、競い合う活動に移行します。

そして、ゲームや活動を通してしっかりと定着させた後に、今度は生徒それぞれの意見を交換させながら学習内容の理解を深めていくなど、交流活動や表現活動までつなげていくようにしましょう。

# 03-1

「聞く」力を伸ばすワーク①

## グループ対抗BINGO

活動  
形態

グループ

所要  
時間

8~11分



ねらい

▶ グループメンバーと協力して取り組む

BINGOと聞くと、1人ひとりで活動するイメージがありますが、この活動はグループのメンバーと協力して取り組みます。

生徒は、聞き取った英語が表すイラストのカードを理解し、リピートしながらカードをひっくり返してBINGOの列をつくるため、自然と英語を「聞く」、カードの内容を理解しながら音をまねして発音することになります。

カルタなどのように友だちとの競争ではないので、じっくりと英文を聞き取ったり、発音したりさせましょう。

活動を繰り返すうちに、だんだんと英語を聞き取れるようになりますが、生徒によって「聞く」力には差がありますので、友だちと協力し合いながら取り組むことで、自然と生徒同士の助け合いができたり、学び合いにつなげたりできる活動です。

## ▶ 進め方

- ①机4つのグループワークの配置にする。
- ②各グループの机の上に、4×4でカードを並べる。
- ③教師はカードを1枚選び、英語で発音する。
- ④生徒は教師が発音したカードをひっくり返し、英語を発音する。
- ⑤カードを見つけられない生徒も、周りの動きを参考にカードを確認して英語を発音する。
- ⑥ひっくり返したカードで、縦・横・斜めで列ができたらBINGO。
- ⑦一番多くのBINGOをつくれたグループが優勝。

### ポイント 英語が苦手な生徒も焦らず活動できる工夫を

カードゲームを行うと、どうしてもグループの中で競い合いの気持ちが生まれてしまい、じっくりと英文を聞いたり、リピートしたりすることに意識が向かなくなってしまいます。しかし、グループ対抗であれば、焦る必要がないので、英語が得意でない生徒もきちんと英語に触れることができます。

### バリエーション

BINGOが終わった後に、すべてのカードを裏側にひっくり返し、再度教師が読み上げたカードがどこにあったかをトランプの神経衰弱のようにして探すという「Memorizeゲーム」につなげることもできます。これは、グループ対抗にしてもいいですが、グループ内でジャンケンをして順番を決め、1人ずつカードをひっくり返していく方法もおすすめです。繰り返し行うことで、イラストと英文の音が自然と結びつくので、英文を聞いただけでカードのイラストが自然と脳裏に浮かび上がるようになります。